



TITLE:

指定図書の利用高まる

AUTHOR(S):

CITATION:

指定図書の利用高まる. 静脩 1966, 3(2): 6-6

ISSUE DATE:

1966-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36336>

RIGHT:

指 定 図 書 の 利 用 高 ま る

指定図書とは教官の講義に対し参考図書として学生に閲読を課し、また授業に関連して参照利用される図書をいう。

このような図書を各学部の学部長または教室主任の教授に選定を依頼し、それを図書館において購入、開架図書室に排架して学生の利用に供している。その数は現在1,636冊である。41年度購入の分についてもこの3月に選定依頼状44通を各部局に発送、35通の回答を得、1,178冊の図書が指定された。そのうち教室間に重複のもの121冊と、既に指定書として排架済みのもの486冊とを除いて、692冊を購入することとした。

さて、従来このようにして購入された指定図書は実際にどのように利用されているか、下表のごとく40年度は前年に比し、指定冊数9%増に対し利用冊数30%増、利用率11%増となっている。また利用回数は49%増、利用回数率は実に103%増という高率を示している。もっとも多く利用されたのは、高木貞治著「解析概論」で1年間に67回、シッフ著・井上健訳「量子力学」が61回であり、以下、40回以上が6冊、30回以上が9冊であった。

このように学生間ではだんだん指定図書が認識され、利用の度が高まりつつあることは図書館として誠に喜ばしいことであるが、前述のような利用度の高い図書に対しては、当然副本の用意がされなければならない。本館の指定書購入費は今年度70万円の予定であるが、これでは副本の用意はおぼつかない。指定図書の拡張充実のために予算的裏付の措置がとられたいものである。

年度別	A 指定図書数	B 利用冊数	C 利用回数	D 利用冊数率 B/A	E 利用回転率 C/A
39年度	1,498冊	801冊	4,199回	53%	280%
40年度	1,636冊	1,044冊	6,273回	64%	383%
増 減	+ 138冊	+ 243冊	+2,074回	+11%	+103%
増減率 %	+ 9%	+ 30%	+ 49%		

電子複写のご利用を

従来のマイクロ・フィルムによる複写に加え、新たにゼロックスによる電子複写を始めました。量の少ないものならば即時に渡せる利点をもっています。即時に複製ができあがるということは、研究者にとって大変な魅力だと思います。

この複写室を大いに利用し、役立てていただきたいと思います。(現在は資料持参のみ受け付けています。受付は1階、旧新聞閲覧室で行なっています。)

料金 1枚(B4判) 30円

あとがき 利用者から寄せられるさまざまな言葉に、私達は毎号反省とはげましを与えられます。要望にこたえて、より利用し易く能率的な図書館、より充実した図書館に、とは願うものの現実はなかなか容易ではありません。相互の理解と協力のもとに、一步一步改善への道を歩みたいと思います。利用者の寄稿と共に館員の声も少しずつのせることにしました。「静脩」の主目的である図書館と利用者間のコミュニケーションをよくする一助ともなれば幸いです。

この号から編集員が下記の通り交替しました。ご支援をお願いします。

河本 芳子(本館)	福本 重子(文)
奥村 和子(〃)	成尾ハスエ(法)
川本 君代(〃)	伊達 恭子(医)
熊谷 紀子(〃)	谷口智恵子(理)
松崎 正子(〃)	岡田 紀子(農)
	奥野三栄子(教養)